

会長就任あいさつ

この度、平成 28 年 4 月より、前会長 田勢亨先生の後を受けまして、宮城県臨床細胞学会の会長を務めさせていただくこととなりました。

平成 23 年の東日本大震災から、この 3 月 11 日で 5 年目の節目の年を迎えました。宮城県でのがん検診も、受診率をはじめ、震災で大きな痛手を受けましたが、関係の方々の尽力で着実に回復し、現在では震災前とほぼ同等の水準にまで回復しています。また宮城県での細胞診は、平成 28 年度から液状検体法が多く地域で導入されるようになるなど、大きく変貌を遂げつつあります。一方、日本全国を見ると、婦人科検診で HPV 検査法を取り入れる地域もわずかず増えているようです。さらに海外に目を転ずると、HPV 検査法を細胞診の前段階でスクリーニングとして取り入れる国も出てきました。日本でのがん検診発祥の地とされる宮城県として、これら新しい診断法をどのような形で取り入れ、臨床細胞学として活用・発展させていくか、皆様方と一緒に、細胞診断の在り方の原点に立ち返り、考えていきたいと念じております。

来年、平成 29 年の夏には、第 48 回日本臨床細胞学会・東北支部連合会が、6 年ぶりに宮城県で開催される予定となっております。また続いて秋には、第 26 回日本婦人科がん検診学会を仙台で開催する予定です。これを機会に、ぜひ会員の皆様方とともに、宮城県から「新たな臨床細胞学の展望」を、発信していければと考えております。

簡単ではございますが、これにて就任の挨拶とさせていただきます。

どうぞご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

宮城県臨床細胞学会会長

伊藤 潔